

LINDENBAUM

お待たせしました。今年度第1号の音楽科通信「LINDENBAUM」です。

今回の特集は、新任教員紹介、一年生担任の先生からのお言葉、一年生ふれあい合宿の感想、公開レッスンの感想、と盛りだくさんです。

これから一年間どうぞよろしくお祈いします。それぞれの決意を胸に充実した一年にしていきたいと思います♪

～新しい先生方のプロフィール&一言～

三村隆文 先生 (ピアノ)

初めまして。今年度初めて小諸高校音楽科のピアノを担当させていただき事になりました、どうぞよろしくお祈い致します。

初日の自己紹介の時お話しさせて頂きましたが、私は青森県で中学の途中まで過ごしました。当時はヴァイオリンとピアノを習っていましたが、殆ど練習はせずに、学校から帰ると毎日のように虫や魚を捕ったり、学校が休みの日は両親と山菜やきのこや時にはしじみ貝を採ったりしていました。したがって楽器の練習は気持ち程度でした。けれども、そうした毎日が今の自分にとって不可欠なものであり、心の支えとなっています。

先日小諸に初めて降り立った時、まず空気の匂いに嬉しくなりました。澄んでいるという事と、植生からくる匂いが青森で毎日感じていたものとても似ていたからです。

その日から早速ピアノのレッスンをさせて頂きましたが、生徒の皆さんがあまりにも純朴で素直な事に、伺う前から想像していたとはいえ本当に嬉しく思いました。

音楽も含め、自分を表現するという事は、その人の育った環境やそれによって培われた経験がそのまま表れるものだと思います。情操というものが都会的な場所や人工的なものから全く生まれえないとは言えないと思いますが、人間の心の機微や本当の情緒は、大都会での刺激や競争からは殆ど得られないと思います。

皆さんのいる自然環境や、そこで暮らしてきた家族や友達や先生との毎日は、今までもこれからも本当にかげがえのないものです。もちろん演奏する上での技術的な専門性にも磨きをかけなくてはならないですが、どうか練習以外の部分にもバランスよく時間をかけて毎日を過ごしてほしいと思います。スポーツで体を動かしたり、おいしいものを食べたり、たまには料理もしてみてください。家族や友達や先生と話したり、自然の中でぼーっと過ごしたり遊んだりという時間も大切にしてください。

話があちらこちらへ行ってしまいましたが、最後に音楽そのものについて経験から一つだけお話ししたいと思います。

様々な楽器によるアンサンブルがあるように、一つの楽器だけでの表現には限界があると思います。音楽表現の最も大切なものが、歌う(楽器の演奏でも)ということであるとすれば、例えばピアノという楽器などは、誤解を恐れず言わせて頂けば、その実現がかなり苦手なものだと思います。

多くの方がピアノも上手に弾きたいと思うように、ピアノだけを演奏してきた人もまたある程度の年齢になると、他の楽器もやってくれば良かったと言うのをよく耳にします。私が今までピアノのレッスンをさせて頂いた生徒さん達の事を考えても、例えば弦楽器や管楽器も一緒にやっている経験が長い生徒は、ピアノを弾く時の音量や長さの微妙なバランスなどが違うと感じています。歌う事も含め、専攻楽器以外への接し方も今まで以上に大切にしてください。アンサンブルもなるべくやって欲しいと思います。

それではどうぞよろしくお祈い致します。

水寄真衣 先生（ピアノ）

今年度、音楽科でお世話になっております水寄真衣と申します。主に合唱部の伴奏を担当しています。

私は6期生として小諸高校音楽科で学びました。先生方や多くの卒業生も感じていることと思いますが、音楽科は一心に音楽に取り組むにあたりとても環境に恵まれています。素晴らしいレッスンを受けられることや、ホールなどの施設はもちろんですが、お互いに切磋琢磨できる仲間がいるのはとても心強いことです。ライバルでもあり味方でもあり、後の共演者になるかもしれません。自分の専攻ではない楽器やアンサンブルから学べることもとても貴重です。気づかぬうちに糧となっていることもあるかもしれませんが、ぜひ積極的に様々な音楽に耳を傾けて欲しいと思います。

音楽の勉強はきりがなく、努力したからといって必ずしも望みどおりにとはならないですが、努力をせずに成果を得られることはないと感じています。しかし受験や将来を見据えて頑張り続けるのは心身ともに辛いことも多く、悩んだとき、疲れたときは思い切って休むことも大切だと思います。大きな歩幅でなくても一步一步直実に目標に進んで行けるように願っています。

最後になりましたが、大好きな母校と一緒に演奏させていただけることを心から嬉しく思っています。どうぞよろしくお祈りします。

音楽研究室にいる先生

須江さやか 先生

こんにちは。四月からお世話になっております『須江さやか』です。

あこがれの小諸高校音楽科で、何人もの素晴らしい先生方と若さあふれる皆さんと一緒に音楽を学ばせていただけることにまず感謝し、身の引き締まる思いでいっぱいです。

私は、ピアノを中心にこれまで勉強し、子育てに奮闘するまでは、中学校で教員として携わっておりました。子育てが一段落すると、地域の合唱団の指揮者として大好きな合唱を楽しみながら、様々な場所で演奏させていただいていました。

皆さんには、この素晴らしい環境で同じ志をもつ友と刺激しあいつつ、いろんな経験をたくさんできるといいですね。楽しみを見つけ、苦しみも互いに分かち合いながら、仲間のつながりを大切にできる高校生活にしてほしいなあと思います。

私も少しながら子育ての経験も生かしつつ、皆さんの話に耳を傾けられる一人であれば嬉しいです。よろしくお祈りいたします。

依田潤子 先生

小諸高校音楽科のみなさん、はじめまして。この4月からお世話になっております依田潤子と申します。3月までは望月高校と北佐久農業高校を兼務しておりました。専門はクラリネット、もともとの出身は小諸市です。

音楽はもちろん好きですが、体を動かすことも好きで、大学時代はソフトテニス部に所属していました。また、時間がとれると、ビーズアクセサリー作りに没頭したり、自転車を購入して出かけてみたり…と急に思い立っているいろんなことをやってみます。時間がなくなるとやめてしまうので、長続きしないのが難点です。

さて、学校は多くのことを学べる場です。授業を受けて勉強するだけでなく、友達や先輩後輩とたくさんおしゃべりして人付き合いを学ぶこと、自分にとって一番大切なことを見つけて一生懸命に取り組むこと、お昼休みにおいしいお弁当を食べること、休みの日には全力で遊ぶこと、全て大切なことだと思います。

みなさんの高校生活が楽しく有意義なものになるよう、すこしでもお手伝いできればと思っています。よろしくお祈りします。

～新担任より～

一年担任

小諸高校音楽科に32名の新生がやってきました。なかなかキャラの濃いメンバーで、とってもワクワクする毎日が始まりました。

音楽科は、一人一人が目標を持って自分の目指す音楽を追求するのに最適な環境です。これまでの先輩方には、その環境や施設などを十分に活かして希望の進路にたどり着いた人がたくさんいます。これは非常に素晴らしいことであると同時に、生徒の皆さんにとっては、自分の生活を律し、明確な目標を設定し努力していかなければならないということでもあります。

音楽するのは、先生でもお父さんお母さんでも仲良しの友達でもない、自分なのです。専攻実技などの個人練習、家庭での予習復習など、自分自身で計画的にやっていかなくてははいけません。レッスンや授業を利用して自分のレベルをどんどん向上させ、それぞれの先生にさらに難しい課題をもらってください。立ちはだかる壁の高さに、悩んだり泣いたり、周りとは衝突することもあるでしょう。しかし日々の生活の中で「上達していく自分を実感できる」とか「やるが多すぎて時間が足りない！」などと思えるような、前向きな生活ができれば、音楽科を卒業するころ皆さんの前に素敵な世界が広がっているのではないのでしょうか。

皆さんがレベルアップをつづけて、お客さんの心に響く音楽ができる人になっていくことを想像すると、今から楽しみで仕方がありません。

がんばろう小諸、がんばろう音楽科！

～ふれあい合宿を通して～

4月11日～12日、飯綱高原で行われた合宿に一泊二日で行ってきました。フレッシュな1年生32名が音楽科に仲間入りしました♪

入学して一週間も経たないうちに音楽科の皆と合宿へ行くのは不安もあったけれど、合宿を終えた今は、合宿へ行って良かったと思います。

一番印象に残っているのは、金曜日の夜に行ったグループ発表です。しばらく個人練習しかしてこなかった私にとって、グループでの練習・発表は新鮮で、とても楽しく感じました。他のグループの発表を聴き、観て、とても大きな刺激を受け、早く練習したいと思いました。

二日目は、音楽科の皆と初めて合奏をしました。久しぶりの合奏は楽しかったです。

この二日間を通して、ただ練習するだけの毎日に刺激をもらったり、音楽科の皆のこともわかってきたし、とても充実した二日間を過ごすことができました。合宿へ参加できて本当に良かったです。

私は、先日のふれあい合宿で「仲間と協力して行動する」ことや「演奏者としての人への見せ方」を学びました。七組のみんなとはまだ出会って一週間というとても短い時間しか共に過ごしていなかったので、正直、合宿中に仲良くなれるのか、行動面で協力して動くことができるのか、とても不安でした。しかし、同じ音楽の道を志すものとして意見を言い合い、話し合い、協力して二日間過ごすことができたのではないかと思います。さらにそれだけではなく、グループ別発表会では、友の演奏する姿、音に刺激を受け、学び、自分ももっと頑張らなくては、という気持ちになりました。二日目の弦楽発表では、今の自分自身が出せる音を精一杯出しました。その後、プロの方の演奏も聴かせていただきました。全然違いました。すごく感動しました。私もあんな風に演奏できるよう頑張ります。そして最後に、私はこの合宿で中学生の頃とは違う、と身に染みて感じたことがあります。それは、みんなが音楽に対して真剣で、前向きだということです。「練習をする」のではなく、「練習がしたい」という人が多く、とても良い環境だと思いました。

～トランペット公開レッスンを受講して～

6月20日にアンドレ・アンリ先生によるトランペットの公開レッスンが行われました。
レッスンを受けた3人の生徒から感想を寄せてもらいました。
先生のご指導をこれから生かしていきましょう。

二年

今回、トランペットの公開レッスンを受講させていただいて、基礎的なことや自分の苦手としているものの奏法など、たくさんのお話を学ぶことができ、これからやらなければならないことが明確になりました。まず最初は、マウスピースでの練習の仕方について教えていただきました。普段私は、マウスピースでの練習に時間をかけず口ならし程度で適当にやっていたのですが、楽器を吹く前にマウスピースで音のクリーニングをする必要があると教えていただきました。マウスピースでしっかり吹けないと、楽器でさらに息の抵抗が大きくなった状態ではもっと吹けないので、これからはマウスピースの練習もしっかりやりたいと思いました。他に、私の苦手とするタンギングについて教えていただきました。息をしっかり流して吹くことが大切だとわかりました。また、このような舞台上立って演奏すると緊張して自分のコンディションがどのようになるかがわかったので、普段からそのようなステージを考えた練習をして、これからある発表の場に生かしていきたいです。

今回の公開レッスンで学んだことを今後の練習にしっかり役立てていきたいです。

三年

今回、アンドレ先生のレッスンを受けて、普段言われなようなことを指導していただけてたくさんのお話を吸収できたレッスンでした。

最初音を聴いた時は、すごくキレイな音でびっくりしました。私が普通に吹いているつもりでも何度も大きいと言われたりして、やはりトランペットはただ鳴らせばいい楽器ではなく、もっとエレガントな楽器でもあるんだな、と思いました。先生に姿勢のことを言っていただいて、少し前かがみになるだけで音が全く違いました。他にも少し意識を変えるだけで良くなったりしたので、曲に対する意識を変えて、いろいろな視点から考えられるようになりたいと感じました。

このレッスンを通して、すごく重要なことを発見できたと思います。これからの練習にも今回のレッスンのことを振り返り、生かしていきたいです。

三年

今回初めて公開レッスンというものを受けさせていただき、世界でも有名なアンドレ・アンリ先生のレッスンを受けることができました。

アンドレ先生は音色とテクニックがものすごく上手かったです。今回「華麗なる幻想曲」をレッスンしていただきましたが、アンドレ先生の音は、自分が求めている音色だったのですごく感動しました。ものすごく音色が綺麗で、音楽性が高く、隣で吹いてもらって肌で感じることができ、良い経験をさせていただきました。自分にはまだまだ届かないタンギングの質の高さと、息の使い方、そして音楽性が完璧で素晴らしかったです。アンドレ先生の音色に近づくためにたくさん練習をして自分の技術を磨き、努力を重ねていきたいです。このレッスンで教えていただいたことを生かして頑張っていきたいです。